

福島県PTA連合会会報  
第74号\_H19.12.14

# PTAふくしま

## 第74号

福島県PTA連合会  
編集/調査広報委員会  
印刷/泉印刷所

### いわき大会記念講演 地球のステージ

世界で起きている様々な出来事を子どもたちの姿を通して、映像と音楽と語りで、わたしたちに熱く伝えてきました。



《主な記事》

いわき大会参加記 P2~3

各種受賞団体等紹介 P4~5

びわこレポート、仙台レポート P4

小中別懇談会、母親代表者会概要 P5

事務局より P6

## いわき大会

### 新たな試みを取り入れて



いわき大会実行委員長

根本 紀太郎

「各単位PTAで献身的な活動をなさる方々が参加する、福島県PTA研究大会には、県内のPTA情報がぎゅっしり詰まっている。」と、私たちは思っていました。またそうであるならば、「いわき大会では、参加する方々ができるだけ多く発言し、情報交換がなされることにより、これからの活動のために、様々な種やエネルギーを得ていただきたい。」との想いが募るのでした。

このような考えを基本として、「第五十六回福島県PTA研究大会いわき大会」を十月十三日、十四日の二日間、いわき市中央台地区で開催させていただきました。

一日目の分科会は六つの小学校・中学校・高校を会場に、七つの分科会を実施しました。講演・パネルディスカッション・提言のほか、前述の想いをかなえるため、少人数に分かれて議論するバズセッションやグループブローキングを多く取り入れました。新しい試みであり、改善すべき点もありま

した。しかし、参加した皆様の寛大かつ前向きな姿勢のおかげで、一定の流れをつくることができましたと分析しています。

二日目の全体会では、映像と音楽と語りで構成される「地球のステージ」が、桑山紀彦氏により上演されました。このステージが発信する「紛争・災害・貧困など困難な状況にある世界の小さな人たちは、それらを乗り越え、助け合い、工夫し、笑顔で生きている。」というメッセージに、会場内の誰もが胸を打たれました。今大会後、福島県内からの問い合わせが増え、何件かは日程決定間近とのことであります。たいへんうれしく思いますとともに、「地球のステージ」が福島県内にどんどん広まっていくことを期待しています。

最後に、会員の皆様が、募集定員を大幅に上まわる、約千八百名の参加でご協力くださいましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



# 県P連研究大会に参加して

## ◆第二分科会 研修活動

郡山市P連会長

佐藤 辰夫

『思春期の家庭教育を考えよう』をテーマに「子どもたちに伝えたい性・いのち」について、桜の聖母短期大学教授、西内みなみ先生の講演が行われました。西内先生の家庭環境そして自らが二人の子どもに恵まれ夫婦協力してPTA活動を十六年間に渡り行ってきたことから始まり、この十六年が子どもと触れ合うことが出来た大切な時期であり、かけがえのない我が子との時であったことをお話しされました。そして十年前に露呈した本県における十代の子どもの性の問題。現在でも、中絶率全国ワースト5に入る現状に、改めて衝撃を受けた方も多かったと思います。そして性交渉に対する子どもと親の認識のずれに幅があること。自分を大切にしてくれる親がいなく感じている子どももほど性経験が高くなること。また「悩みを解決できずにキレる子ども」「悩みを抱えられない大人」について話しをされました。性といのち。分かっているつもりでも、なかなか口に出して話すことが出来ない言葉。最後に先生自身が、「親としての自信を持ち、二人の子どもが育っていくまで親をあきらめないこと。そして生きていくことの手ごたえ、これが我が子に伝えたい性といのちなんだと思う。」と締めくくっていました。どの子どもも通過しなければならぬ思春期であり、そしてその時期を受け止めなければならぬ親の責任。分科会を終えそれぞれが考えさせられるテーマだったと思います。

## ◆第四分科会 家庭教育2

西白河P連会長

金子 雄治

第四分科会は「子どもたちの望ましい生活習慣を形成しよう」のテーマのもと、会員三百余名の参加をいただき開催されました。まず始めに四名のパネリストの方々とテーマに添った提言を発表していただきました。

中島清州氏からは、学校と家庭地域との協働体制確立の重要性について。栢田祐子氏からは、食生活習慣について。芦野孝彦氏からは親子で一緒に運動（スキニッシュ）することの重要性について。



## ◆第五分科会 健全育成

福島市P連会長

浪岡 真澄

第五分科会、健全育成では、「地域で子どもたちの安全を見守ろう」をテーマに三百三十三人の参加者で開催されました。コーディネーターの木村隆氏が、「今、子どもたちの安全をどのように確保し、見守り活動の盛り上げを進めていくか」との問い掛けに四人のパネリストからの発表がありました。

川内中学校PTA副会長の三瓶守衛氏より、教育委員会が中心になり不審者に対して「情報ネットワーク」を作成し諸国会合、広報誌で説明また、村公用車等によるパトロールステッカーを貼った巡回など川内村全体の取り組みが報告されました。

次に、松山小学校PTA会長の大山智氏より、「自分の命は、自分で守る」を主に学校では安全の教育の充実を図り、子どもたちが地域を見回り子どもの目線で危険箇所が分かるように「地域安全

「生活習慣」というすぐに実践すべき内容のため意識が高く活発な発言と意見交換が行われました。多くの「種」を持ち帰ることの出来た分科会であったと思います。

マップ」を作成するなど子ども自身が自己防衛の意識を高める活動が報告されました。

そして、岩代中学校PTA会長の斎藤隆博氏より、「まず、今の子どもたちから犯罪者を出さないことが、一番の防衛策である。保護者が子どもの送り迎えをするのも大事だが、登下校時の道草で自然のやさしさ厳しさを知り、地域の方との触れ合い、そして心にとり（たとえてハンドルの遊び）の時間が必要である。そして、地域全体で温かい目で見守ることが、これからの犯罪を予防することにつながるのではないか」との意見をいただきました。

また、大成小学校PTA会長の糸井伸幸氏より、PTA行事にな





◆第六分科会 特別支援教育

相馬地方P連会長

日下龍一郎

第六分科会は、「特別支援教育への理解を深め、共に学ぶ環境づくりを推進しよう」のテーマのもと、三人の方から提言をいただきました。

福島養護学校P副会長佐藤祐子氏は、障がいを持つ親の立場から提言されました。共に歩み、共に育つために、交流学习や地域の支援の大切さが、これからの福祉社会を支えていく原動力になるといふものです。

天栄中学校PTA会長長川崎潤一氏は、支援を必要とする子どもたちの理解と対応の在り方について、職員の加配、補助教材の活用、自立への取り組みなど、学校の実践をおとした具体的な内容について発表されました。

田島中学校PTA会長長渡部充氏は、氏自身が怪我で松葉杖生活を送らなければならなくなった経験から、障がい者に優しくしない社会を経験し、特別支援教育は、障がいを意識しない社会づくりをめざすものであるとの発表がされました。参加者からの意見が途絶えることなく出され、活発な中にも、深く考えさせられる意見が相次ぎました。特に、「私たちもいつかは



障がい者になる。この子どもたちは、少し早く障がいを持ったに過ぎない」と言う保護者の意見は、どんなことよりも説得力があり、参加者全員が多に悩み考えさせられるものでした。これからの特別支援教育を充実させ、広く理解を得ることの大切さを実感させられた分科会でした。

大会決議

- 一、わたくしたちは、会員一人一人の参画意識を高めるとともに、PTA活動の活性化を図るため、会員相互が力を合わせて積極的な活動を推進します。
- 一、わたくしたちは、児童生徒たちが将来自分の夢を実現できる、健康な心と体を育むPTA活動を推進します。
- 一、わたくしたちは、家庭の持つ教育的に役割を認識し、望ましい家庭教育の充実のため、教育力の向上をめざしたPTA活動を推進します。
- 一、わたくしたちは、児童生徒たちの安全を確保するため、家庭・地域・学校が連携し、危機管理体制の整備・充実をめざした具体的なPTA活動を推進します。
- 一、わたくしたちは、特別に支援を必要としている人々との交流を通し、理解を深め、すべての人々が共に学ぶ環境づくりをめざしたPTA活動を推進します。
- 一、わたくしたちは、児童生徒たちが思いやりをもち、友だちと仲良く生活でき、いじめのない環境づくりをめざしたPTA活動を推進します。

平成19年10月14日

第56回福島県PTA研究大会いわき大会



◆第七分科会 特別課題

会津若松市連P会長

阿部 潔

第七分科会では特別課題「いじめ問題について考えよう」のテーマのもと、会津若松市立門田小学校PTA会長長木村清一さんより、いじめ問題を十項目にわたり提言していただきました。いじめは絶対に許せないことを子ども達に徹底させること、いじめ問題の解消の第一責任者は担任の先生であること、家庭や地域の日頃からのコミュニケーションの大切さなど、

大変説得力のある提言でした。

次に小野町立小野中学校PTA会長吉田勝司さんより、いじめ問題を、子ども達に出来ることと大

人がすべきことの二つのテーマに分けて提言していただきました。子ども達に出来ることは、「いじめは悪」と認識させることが大事であるとして、生徒会が中心となつて「いじめゼロ集会」が開催され、「いじめゼロ宣言書」を採択する

など、生徒自らがいじめ撲滅に取り組んでいるとのことでした。また、保護者へのアンケートを行った結果、いじめの事実はその保護者から聞いたという割合が多く、親同

かなか参加できない父親が、子どものために何かできないかと「おやじの会」を立ち上げ、土曜日の夕方、地域周辺のパトロールやゴミ拾い、公園のトイレ掃除をするなど活発に活動し、参加者もPTAのOB・OG、中高校生(同校の卒業生)とどんどん盛り上がりつつあるとの報告がありました。最後に会場からも「子どもの卒業と一緒に保護者も見守り活動から抜けてしまい人数が増えない」また、「最近、事件が少なく危険意識が薄れて見守り活動が疎かになつていふ」などの悩みも聞かれ、会場一体となつて今回のテーマに取り組むことができ第五分科会が大盛況に終わりました。

士の情報の交換が大切であり、保護者と学校との連携の重要性の提言がなされました。提言後、八つのグループに分かれて活発なグループトークが行われた後、各グループごとに発表がありました。

最後に、福島県教育庁教育指導領域学習生活指導グループ指導主事鈴木康雄先生より指導助言をいただき閉会となりました。いじめ問題はこれからもPTAとして真剣に取り組まなくてはいけない重要問題であると実感しました。



# 晴れの表彰

## おめでとうございます

### いざいませ

#### 一、文部科学大臣表彰優良PTA

(三団体)

- ・二本松市立二本松北小学校父母と教師の会
- ・会津若松市立城南小学校父母と教師の会
- ・福島県立大笹生養護学校父母と教師の会

#### 二、日本PTA全国評議会会長表彰

(二団体)

- ・会津若松市立城北小学校父母と教師の会
- ・郡山市立富田中学校父母と教師の会

#### ◇個人(四名)

- ・宮本 孝 (県P連前会長)
- ・渡邊 守康 (県P連前副会長)
- ・片岡 学秀 (県P連前副会長)
- ・松田 貞夫 (県P連調査広報部長)

#### 三、東北PTA連絡協議会会長表彰

(四団体)

- ・福島市立平野中学校PTA

## びわこリポート

双葉郡P連副会長

川島 優

とても暑かった八月末、第五十五回日本PTA全国研究大会滋賀びわこ大会「さあ、はじめよう！びわこから！ー見つめよう、命と自然の大切さー」が二日にわたり開催され、全国約六千名の参加者のひとりとして、感動的で貴重な体験をさせていただきました。

大会初日は、第二分科会「家庭教育」～生きる喜びに満ちた子どもたちを育む家庭教育～がテーマ

## 仙台リポート

(社) 日本PTA全国協議会第三十九回東北ブロック研究大会仙台大会が、勢力の強い台風が東北地方に接近する中、杜の都仙台市で九月の七・八日の二日間にわたり開催されました。

福島県PTA連合会からも、百二十余名の会員が参加しました。

第一日目は、分科会に分かれての研究協議でした。福島県からも、第一分科会の運営責任者として根本紀太郎会長が分科会の運営にあたられました。また、第一分科会

でした。定員五百五十名に対し、約千二百名の参加は家庭教育への関心の高さが伺えます。講演の中では、家庭教育において「親の子に対する愛情」がいかに大切であるかについて、事例を交え具体的な内容で分かりやすく、かつ強烈なメッセージとして発信されていました。親の子に対する愛情が欠けると、子どもはそれを本能的に察知し心が不安定になるのだそうです。円満な家庭を築くことが子どもの精神安定に繋がるようです。

また、「子は親の背中を見て育つ」と言われるように、子どもは親の行動をよく観察し真似をするそうです。私たち大人の規範意識の低下こそが、子どものモラルの低下に繋がっていると。自分の場合は、どうだったろうか？改めて考えさせられる一日となりました。



大会二日目は、大会宣言の後、青島広志氏・小野勉氏による記念講演があり、内容の濃い三時間となりました。この二日間で得られた最大の収穫は、主催者と参加者が子どもたちを思う純粋かつ大きなエネルギーです。これを枯渇させることなく、今後のPTA活動に活かしたいと強く感じました。

最後になりましたが、今回はたいへん貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。

のパネラーとして、郡山市連Pの郡山市立明健中学校PTA会長の澁谷薫さんが、第四分科会のパネラーとして、福島市連Pの大森小学校PTA会長の秋山智樹さんが、それぞれの学校でのPTA活動の様子や組織運営の苦労、家庭と学校との連携について協議の話題提供をされました。

分科会の基調講演者が台風の影響で変更になるなど、影響を大きく受けた分科会もありましたが、活発な討議が行われ、有意義な会でした。

第二日目は、台風一過の晴天の中、仙台サンプラザホールで開会行事、表彰が行われました。前県

連P会長(前東北ブロックPTA会長兼務)の宮本孝さんが感謝状を受け取り、代表して謝辞を述べました。続いて宮城県第三女子高等学校音楽部によるアトラクション。みごとな合唱の数々が披露されました。

最後は、アグネス・チャンさんによる「みらいを担う子どもたちを育てる」心を豊かにする教育とは」と題した記念講演が行われました。自分の生い立ちを交えたユーモアにあふれた話や、途中、歌手として歌も交えながら世界中の子どもの現状など実体験を交えて話されました。

調査広報部長 松田貞夫



- ・二本松市立杉田小学校父母と教師の会
- ・田村市立門沢小学校父母と教師の会
- ・いわき市立植田小学校父母と教師の会

◇個人(八名)

- ・大橋 勝彌 (県P連前副会長)
- ・結城 省子 (県P連前母親代表理事)
- ・渡邊香代子 (県P連前母親代表理事)
- ・佐久間博美 (前理事・研修部長)
- ・山浦 勝也 (県P連前会計部長)
- ・持地 隆一 (県P連前総務部長)
- ・古俣 猛 (県P連前理事)
- ・星 聖司 (県P連前理事)

福島県PTA連合会会長表彰

- 〔感謝状〕
- ・宮本 孝前会長 他三十七名
- 〔団体表彰〕
- ・いわき市立平第四小学校父母と教師の会 他二十八団体
- 〔個人表彰〕
- ・矢吹 一則(いわき) 他八十二名

※全名簿は、県P研究大会いわき大会要項に記載してありますので参照してください。

第十五回県P連合会  
小・中学校別懇談会

県P連母親代表(福島)

丹治 さつき



2007 8

今回のテーマは、小学校部「食育」をどのように充実していけばよいか。中学校部「心の教育」の子どもの心はどう理解し、向き合っていけばよいか。そして共通テーマとして「学校・家庭が同一歩調で、どのように連携して、しつけ(躾)機能を高めていけばよいか。を、バズセッション方式でそれぞれ話し合われました。

「早寝、早起き、朝ごはん運動」などを通して食育を展開している中で、子どもを取り巻く食の現状は、昔と大きく異なっており、一人で食事をする「孤食」が増え食事に対する関心が低い子どもたちが増加傾向にあること。共働きの保護者が増え

家族みんなで食事ができない子どもや、帰宅しても家族が働いて誰もいない家庭の子どもたちがいるのに対して、各学校、各PTAは保護者向けに医師の講演会を開催したり、保健だよりを出したり、給食の試食会を開くなど、保護者に「食育」「心の教育」「学校家庭で連携しての躾」に関する興味を持ってもらうよう努力し、徐々に認識してもらえようになつてきたが、それでも学校に教育のすべてを任せる姿勢の保護者もまだいるというところ、そうした人たちに子どもを取り巻く現状をどう理解してもらおうかが課題となりました。

働いているために学校の会合に出席できないのは理解できないわけではないが、今、親がやらなければいけないことを学校の先生がやっているということを考えなければいけないし、親が自分たちで努力しなければいけないことや、子どもよりも大人が変えなければ、子どもは変わらないということをもっと強く大人が親が自覚しなくてはいけないし、学校に教育のすべてを任せてしまう姿勢を変え、学校、家庭、大人たちがお互いに歩みより理解、協力をしながら育てていかなければと沢山の意見が出されました。

最後に子どもたちにとって一番の栄養であり心の教育であり躾である原点は「夫婦(両親)」が仲が良い!の一言につきると、今回出席された方々、全員一致の意見でした。

第十三回県P連合会  
郡市P母親代表者懇談会

県P連母親代表(会津若松)

若林 由美

平成十九年度、第十三回県PTA連合会郡市P母親代表懇談会は、八月三十日、県内の小中学校の代表者四十三名が参加し開催されました。

午前中は、県北教育事務所指導主事の土屋久美先生を講師にお迎えし「子どもたちに望ましい食習慣を」と題し、食の現状についてお話をいただきました。

- その中のポイントとして、
- 肥満傾向出現率ワースト二位
- 東北は肥満度が高く、福島県は全国の中でワースト一位である。
- 小学校低学年の気づき効果が効果的
- ごはん離れ、食の利便・簡便化
- 現在の食事はパン、パスタ、ピザ、ラーメン、安い惣菜など簡単なものへと走ってしまう傾向が多い。
- 小学校高学年の女子は、朝食がパンの子が多く、給食(ごはん)を残す子が多い。
- 日本型食生活(和食)の重要性
- 休日の食事を考えること
- 朝食II生活リズムの確立

このほかに三春小学校の食育についての学級活動の事例も聞くことができました。今、まさに子どもたちの健康が求められている中で、家庭で食べているであろう食事を給食に出すのではなく、子どもたちに一番に視点をおいて、健康を考えた食事を作る場としての学校給食の役割・重要性を改めて教えていただきました。

午後に行われた小・中学校部会では「みつめよう子どもの食生活おとなのかかわり」をテーマにバズセッションをしましたが、先生のお話を聞いたあとでもあり各部会ともそれぞれに活発な意見交換の場となりました。

十七年七月に食育基本法が施行となり、十八年三月には国の食育基本計画が策定されてから、各地域において食育への関心や取り組みが盛んになりつつありますが、真の食育とは、子どもを教育することではなく大人を教育することであり、そのことが意識の向上、単Pの向上へとつながることを学ぶことができました。そして学んだことを家庭で実践していくことが何より肝要であると痛感いたしました。



2007 8



## ふるって応募ください

### ◇子ども災害事故防止習字・ポスター展

実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成20年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

### ◇学校新聞、PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある新聞、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成20年3月29日
- ・送付先 福島民友新聞社事業局  
「県小中学校新聞・PTA広報紙コンクール係」

最近、文部科学省から「いじめ」についての実態が公表されたが、パソコンや携帯電話のインターネットを使った「ネットいじめ」の潜在的危険性が指摘された。本県は、いじめ全体の二・七％となっているが、発覚は氷山の一角にすぎないとする指摘もある。本会としても、その危険性に目を向ける必要があることを呼びかけているが、「知らぬは親ばかりなり」とならないよう、フィルタリングをきちんとして使わせることは親としての責任であることを確認したい。

(T・H)



## 年末年始の交通事故防止を

### 「乗るなら みんなで止めよう その一杯」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

#### ●期間

平成19年12月10日(月)  
～20年1月7日(月)までの29日間

#### ●運動の重点

- (1) 飲酒運転の根絶
- (2) 夕暮れ時及び夜間の歩行者・自転車乗用中の交通事故防止
- (3) 後部座席を含む全席シートベルト・チャイルドシートの着用の徹底

例年事故の多発する年末年始ですが、飲酒運転は厳罰化されたとはいえ、残念ながら飲酒運転による痛ましい事故が発生しています。

大人のわたしたち一人ひとりが自覚すること、子どもの手本となる実践をすることが最良の教育です。

## 安全互助会から【20年度からの変更点】

すでにお知らせのとおり、20年度からは、会費納入の方法が変更となります。F-NET参加の金融機関を利用するの口座引き落としか、ゆうちょ銀行（郵便局）からの振込みか、どちらかを選択していただくこととなります。

- ◇ F-NET参加の金融機関利用の場合
    - ・5月30日（金）までに、登録手続きをした金融機関の口座に会費を入金しておいてください。
    - ・6月5日（木）に、各学校・PTAの口座から引き落としとなります。
  - ◇ ゆうちょ銀行（郵便局）利用の場合
    - ・5月30日（金）までに、会費をゆうちょ銀行（郵便局）から、本会指定の口座に振り込みます。この際、振込手数料はご負担いただくこととなります。
- ※ 入会案内は、1月20日ごろ発送予定です。入会申込みは3月10日（月）までとなります。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 共栄火災海上保険株式会社

〒960-0231 福島市飯坂町平野字三枚長1-1 JA福島ビル2F

TEL 024-554-3006(代) FAX 024-554-3025